

著者初の書評エッセイ集

いつものように店で珈琲を淹れながら、
おすすめの本について会話してようような、
本屋兼喫茶店の店主ならではの読書案内これはわたしの
物語

橙書店の本棚から

田尻久子著（熊本・橙書店店主）

西日本新聞など新聞・雑誌書評（72篇）のほか、本と本屋をめぐるエッセイ（雑誌掲載文、書き下ろし・読書日記など12篇）を併せて収録。記憶の本棚、十代の頃の読書、50歳を超えて「年を重ねた者は若い人たちへ何かしらの義務がある」と気づかせてくれた熊本の先輩・渡辺京二氏の言葉…なども綴る。

一冊の本と出会い、その本を自らの糧として読み、同じ思いを分かち合えるはずの誰かへと手渡していく。

本屋店主の日々の営みから立ち上がる体験的書評エッセイ。

【書評で取り上げる本（抜粋）】 川上未映子『夏物語』文藝春秋／アビー・ワンバック『わたしはオオカミ』海と月社／キム・ヘジン『娘について』亜紀書房／滝口悠生『やがて忘れる過程の途中（アイオワ日記）』NUMABOOKS／ハワード・ノーマン『ノーザン・ライツ』みすず書房／武田砂鉄『今日拾った言葉たち』暮しの手帖社／パク・ゴヌン『ウジョとソナ』里山社／神藏美子『たまもの』ちくま文庫／坂口恭平『家の中で迷子』新潮社／石牟礼道子『綾蝶の記』平凡社 ほか

田尻久子 1969年熊本市生まれ。「橙書店 オレンジ」店主。2001年、熊本市内に雑貨と喫茶の店「orange」を開業。08年、隣の空き店舗を借り増して「橙書店」を開く。16年より、渡辺京二氏の呼びかけで創刊した文芸誌『アルテリ』の発行・責任編集を務める。同年、熊本地震被災後に移転再開。17年、第39回サントリー地域文化賞受賞。著書は『猫はしっぽでしゃべる』（ナナロク社）、『みぎわに立って』（里山社）、『橙書店にて』（晶文社、熊日出版文化賞受賞）、『橙が実るまで』（スイッチパブリッシング）。現在も、西日本新聞読書面に連載中。

ご注文はこちら

FAX 092-711-8120

見計らい配本はありません。ご希望の部数での事前指定をお願いいたします。
配本の都合上、7月5日（水）までにご返信ください。

新刊委託	これはわたしの物語 橙書店の本棚から	田尻久子 著 (橙書店店主)	番線印
	ISBN 978-4-8167-1008-7 C0095 B6判・並製・240頁／本体1,700円+税(予価)	ご注文数	冊

◎取次搬入予定（初回）：7月21日（金）

取引コード：6168（日販・トーハン・楽天BN・きんぶん図書・地方小）

ご担当者名（ ）

ご注文日（ ）